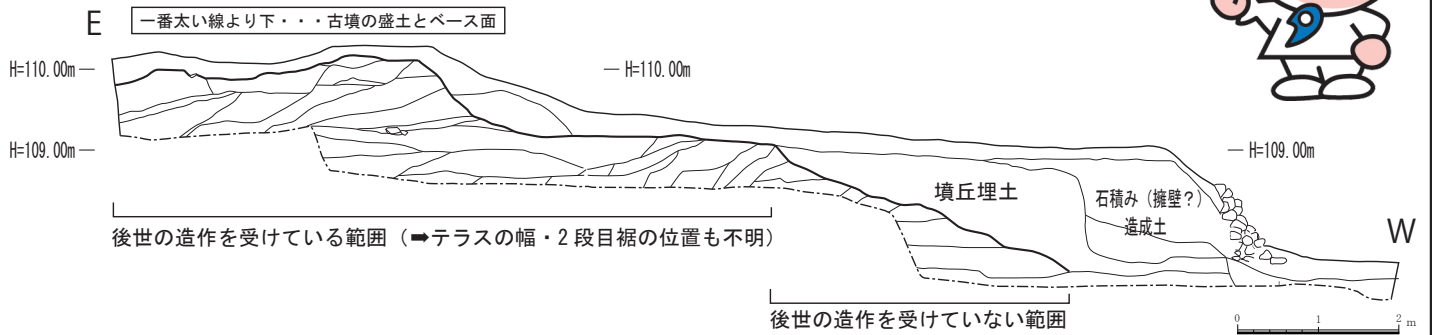


古墳は、さまざまな色の土を交互に重ねてつづっているよ！  
古墳づくりの工事にたずさわった人々の苦勞が伝わってくるね！



## 墳丘の断面図



古墳の近景 (南より 2014 年冬)



盛土のかさなりと、墳裾(★印部分)

## 6 今後の課題

—後円部における墳裾の確認—

- ➡墳裾のラインを明確にすることで、
  - ①墳丘全長
  - ②墳丘の長軸方向
 の2点を「確定」することができます

—周濠は本当にあるのか—

【墳丘南半】「もともと存在しない」可能性がきわめて高い

- ➡東河川に沿って行き交う人々にとっての視覚的效果
- ➡(周濠がある) 岡田2号墳以外の古墳の立地

【墳丘北半】平成8年度(調査は平成9年)の調査で確認しているのは「落ち込み」であって

墳丘よりも外側で、この落ち込みに対応する地面の盛りあがりは未発見

➡存在したとしても、道路の下に眠っている可能性大

➡かつては、埴輪を採集できることを根拠に周濠の存在を肯定する見解もあったが、あくまでも表面採集であり、また、墳丘への造作によって流出したものの可能性が高い。

(古墳の背面をカットし、和田山の平野部や夜久野・糸井方面からの視覚的效果を狙ったか)

古墳には、水をたたえた周濠(ほり)は無かったみたい。でも、傾斜地に造られているから、古墳の形を際立たせるためには山側の斜面を深く削りこむ必要があったんだね

